

INFORMATION

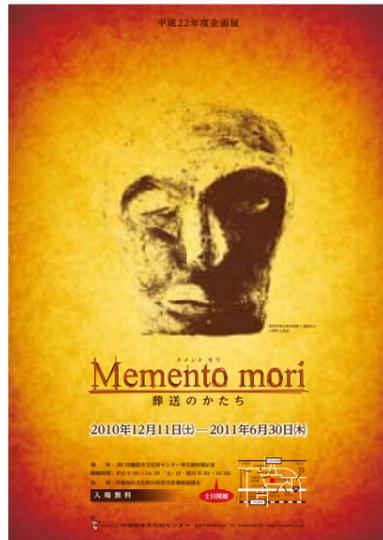


《ご案内》

■企画展「Memento mori  
メメントモリー葬送のかたち」開催中

当センター考古資料展示室にて、平成23年6月30日(木)まで企画展を開催しています。

今回は、人間にとって不可避な「生」と「死」を、過去の人々がどのように捉えていたのか、「土」「墳」「火」のテーマごとに分け、火葬された人骨と白鳥の骨がいっしょに入って出土した佐倉市高岡新山遺跡の蔵骨器などの資料を紹介します。



《速報》

■佐倉城跡(佐倉中学校第8次)井戸跡から出土した木製品



加工痕のある木製品  
(4号井戸跡出土)

現在佐倉中学校のある場所は、江戸時代では佐倉城の武家屋敷地でした。平成22年におこなわれた

調査では、井戸跡や土坑などが見つかり、そのうちの4号井戸跡から木製品が出土しています。

木製品は普通、長い年月の間に土に戻るため、なかなか現在まで残りませんが、今回は井戸跡に水分があったため形を留めて出土しました。佐倉城跡の発掘調査では珍しい例です。

木製品は板状、柱状、角状など全部で25本ありました。柱状、角状のものには、小口や側面に木材を組み合わせるための抉りやほぞ穴などの加工痕が認められ、打ち込まれた鉄釘が残存するものもありました。

用途はなかなか特定できませんが、井戸枠や、建物の部材であった可能性があります。同じ井戸跡からは、17世紀後半～19世紀前半の陶磁器が出土しており、木製品も江戸時代のものと考えられます。

《発掘中の遺跡》

がんばっています!

3月以降の予定

- 〈成田市〉 南開護台遺跡 (奈良・平安時代)
- 〈四街道市〉 東作遺跡 (縄文時代、中世)  
千代田古墳群 (古墳時代)
- 〈印西市〉 荒野前遺跡 (旧石器時代)  
瀧水寺裏遺跡 (旧石器時代)

《室内作業》

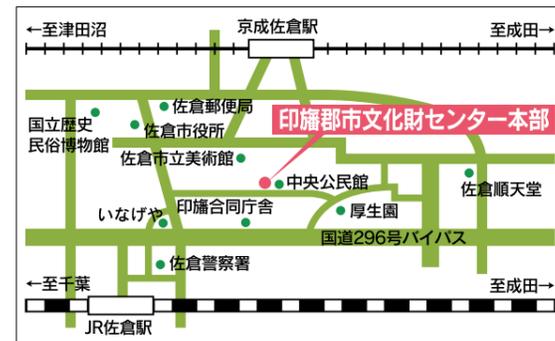
こつちもやっています!

〈本部統合事務所〉

- 佐倉市鎌木町 198-3 TEL. 043-484-0133
- キサキ遺跡5地点 (成田市 古墳時代)
  - 駒詰遺跡第2・3地点  
(富里市 縄文時代、古墳時代～奈良・平安時代)
  - 尾上木見津遺跡第2地点  
(酒々井町 縄文時代、古墳時代～奈良・平安時代)

《おしらせ》

※上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを!

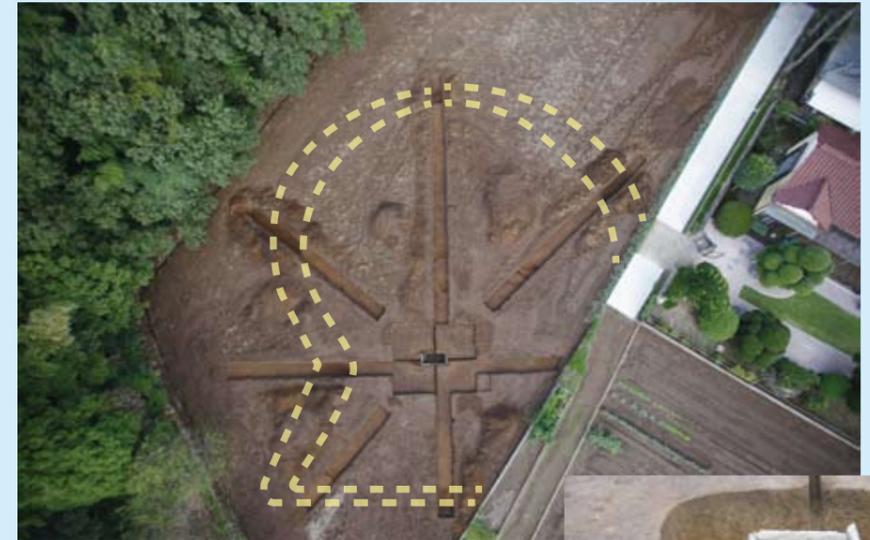


平成23年3月25日 千葉県佐倉市鎌木町198-3 ☎043(484)0126(代) 043(485)9871 http://www.inba.or.jp (ウェブサイト) http://www.inba.or.jp (ホームページ) 〒285-0025 千葉県佐倉市文化財センター 発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター

FIELD BOOK

佐倉市

大佐倉花輪台遺跡(第2次)  
大佐倉花輪台3号墳



▲空から見た大佐倉花輪台3号墳



箱式石棺  
検出状況



◀周溝内埋葬部  
検出状況

今回調査が行われた大佐倉花輪台3号墳は、印旛沼の南岸、沼に向かって突き出した標高30mの台地上に作られた古墳です。周辺には大佐倉花輪台1号墳・2号墳がありますが、現状ではいずれも中・近世の塚とされています。しかし谷津を挟んだ対岸から古墳時代中期の石枕が発見されており、いくつかの古墳が存在した地域と考えられます。

発掘調査は、自然崩壊による主体部の露呈に伴い実施されました。主体部は筑波産の黒雲母片岩製の箱式石棺でしたが、過去に盗掘を受けた形跡があり、副葬品はほとんど検出されませんでした。周溝は後円部が深く、前方部が極端に浅くつくられているのが特徴的です。さらに、周溝北端部からは、木棺直葬と考えられる埋葬の跡が見つかりました。

調査の結果、本古墳は全長34m、後円部約30mの帆立貝のような形をしていると推定され、これは印旛郡内の同じ形の古墳としては最大級のものになります。古墳主体部はくびれた部分の地下に設けられており、このような埋葬形態をもつ古墳は「常総型古墳」と呼ばれ、全国でも当地域にのみ集中する変則的な古墳です。築造された時期については、墳丘形態や石棺の規模などから、6世紀後半段階と考えられます。今回の調査によって、当地域が香取海と呼ばれた印旛沼を臨む古墳の造営地として機能していたことが確認されました。

利根川

筑波山

わがった!



128号土坑(瀬戸産の平碗出土状況)



21号地下式坑



95号土坑(火葬土坑)

墓域

墓域

墓域

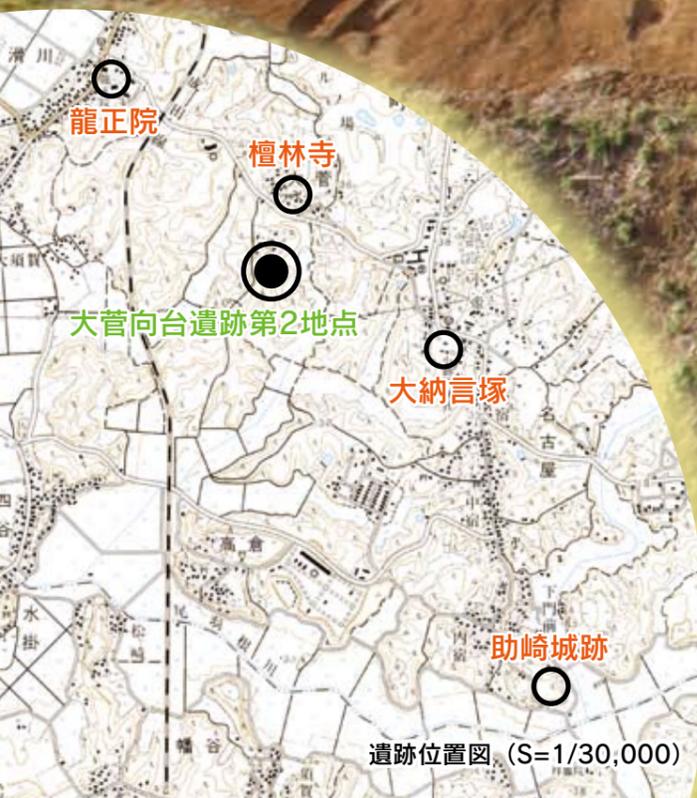
墓域

建物跡

大菅向台遺跡第2地点は、尾羽根川によって開析された標高35mの台地上に所在します。遺跡の周辺には、後醍醐天皇の側近でこの地に流された藤原師賢(1301~1332年)の墓とされる大納言塚がある小御門神社や、本遺跡と同一台地上に存在し1335年(建武2年)の板碑が存在する檀林寺、838年創建とされる龍正院、大須賀氏一族の居城である助崎城跡などがあります。調査の結果、古墳時代後期~奈良・平安時代竪穴住居跡23軒、中世掘立柱建物跡6棟・土坑192基・地下式坑8基・台地整形区画4ヶ所などを確認しました。出土遺物は、古墳時代後期から奈良・平安時代の土師器・須恵器、中世土師質土器・陶磁器・茶臼・銭貨・獣骨などです。主体となる中世の遺構は、4ヶ所の墓域と調査区東側などの台地整形区画、それに調査区中央より集中して確認された地下式坑などがあります。

95号土坑の火葬土坑は、燃焼部よりムシロ状の炭化材、骨粉及び北宋銭が出土しています。調査区内のどの墓域からも、この火葬土坑と方形の土坑が確認されました。112号土坑は小規模ですが、安山岩製の茶臼が上臼だけほぼ完形で出土しました。何かしらの意図があつて埋めたと考えられます。調査区東側の台地整形区画は、最大の長さが約50m・幅25mの規模で、内部からは掘立柱建物跡、溝状遺構、土坑等が確認されました。128号土坑からは平碗(瀬戸産・15世紀前半)などが出土しています。

本遺跡の中世の特徴は、長期間営まれたであろう建物跡と複数の墓域がセットで存在していることです。また、当時武家などしか持てなかった茶臼が土坑より出土していることから、ある程度の有力者が住んでいた建物跡ではないかと考えられます。今後の整理作業によって周辺の遺跡との関連性を含め、建物跡の性格について明らかにしていきたいと思ひます。



遺跡位置図 (S=1/30,000)



112号土坑(茶臼出土状況)

# 成田市 大菅向台遺跡第2地点